

平成29年度 地域懇談会 報告	
日 時	平成29年11月11日（土） 午前10時から11時30分まで
場 所	久慈交流センター
出席人数	(1) 市 民 19人 (2) 事務局 教育長、教育部長、学務課長、学務課課長、 適正配置推進室職員 計25人
内 容	(1) 教育長あいさつ (2) 学校適正配置の検討趣旨について、教育部長から説明 (3) 学校適正配置基の検討状況について、事務局から説明 (4) 意見交換
意見交換	<p>( 質問 ) (久慈学区) 説明は良く理解できた。 検討委員会の議事録を読んでいると、小中一貫教育についても話題になっているようだが、どのように検討しているのか。</p> <p>( 事務局 ) 今年度、基本方針を策定し、平成30年度に具体的な計画を策定する中で、小中一貫校についても検討を重ねていきたい。市内においては、平成23年度から、中里小中学校において取り組んでおり、教育の効果などを検証しながら検討していきたい。</p> <p>( 教育長 ) 平成22年度から、全校で小中連携教育を行っている。現段階で、小中一貫校について具体的な案を持っている訳ではない。いろいろな課題を解決していく中で必要となる学校があるかもしれない。</p> <p>( 質問 ) (東小沢学区) 既に合併の噂を聞いている。合併となる最低人数の基準はあるのか。</p> <p>( 事務局 ) 検討の開始前から、一部の学校について噂が流れている。現在、案は持っていない。人数だけでなく、通学上の安全確保など総合的に検討していきたい。</p> <p>( 教育部長 ) 全体の基準（小学校2学級、中学校3学級）をベースに計画を作り、その後、エリアを設定して、地域の関係者などで検討委員会を立ち上げて協議していこうと考えている。その中で合意が得られれば、統合もあるかもしれない。そのような手順を踏まずに統合ということはない。</p> <p>( 事務局 ) 人数の基準はない。検討を進めるための目安としての基準である。 今年3月に廃校となった君田小中学校の最後の児童生徒数は、小学校4人、中学校3人だったと聞いている。少人数教育の良さは認めつつも、学校としての機能が果たせないような状況になる前に検討を始めたい。</p>

( 質問 ) ( 東小沢学区 )

人数が非常に少なくなる前に検討を始めたいということだが、平成28年に検討が始まった話が流れてから、学校(東小沢小)がなくなるという話が保護者の間で出ている。

平成30年度の入学予定者は、名簿上は7人くらいのはずだが、実際は2~3人だろうと思う。前回の懇談会の時に、他校へ流出してしまうことについて対策を講じたいということだったが、学校と教育委員会の間で話し合っているか。

また、検討のスピードが遅い。早くしろとは言わないが、検討している間に子どもはどんどん減って小さい学校から壊れていってしまう。学校が壊れていくのを阻止する対策を検討しているか。

( 事務局 )

指定学校の変更については、個々の家庭の事情により、相応のものであれば認めている。変更について柔軟に運用することは文部科学省の方針でもあり、ルール範囲内で必要に応じて認めざるを得ない。

検討のスピードについては、他の会場でも指摘を受けた。学校の統合などは、慎重に考えていかなければならないので、検討に一定の時間がかかることは理解してほしい。計画の策定後は、誤解が生じないように、できる限り早く、正しい情報をお伝えしていきたい。

( 意見 ) ( 東小沢学区 )

東小沢小では、奉仕作業に両親で参加する。祖父母も地域の人も含め、子どもの何倍もの人が参加する。地域では、学校は大切にいつまでも存続してほしいと思っている。

学校は好きだけれど、小さい学校はなくなってしまうから、理由を作って他の学校へ行ってしまおう。このままでは、3~4年の間に、児童数が1桁になってしまう。心配だ。

( 教育部長 )

スピードが遅いというのは、対策のスピードのことか、適正配置の検討作業のスピードのことか。

( 質問 ) ( 東小沢学区 )

検討スケジュールに異論はない。慎重さは必要だ。しかし、検討している間に少なくなってしまうことを止めるための対策はあるのか。

( 教育部長 )

全体的に子どもが減っていくのだから、指定の学校に通っても少なくなっていくだろう。

将来を見ながら検討していくが、来年の計画の検討作業はとても大変だと思っている。どこまでまとめられるかは、我々も不安を持っている。計画ができ上がっても、地元との協議なしには先へ進めない。その間の対策も悩ましい。保護者の意思を無視して、指定の学校へ行かせることはできない。

( 質問 ) ( 久慈学区 )

計画が策定された後のスケジュールは、どうなっているのか。

自分は、9校で教職にあった。そのうち3校が廃校になった。地域の反対運動も経験した。子どもたちを登校させないなどの強硬な地域もあった。学校に対する地域の思いは強い。

最後は、子どものため、子どもにとって何が良いのかということである。  
小さい学校の良さには素晴らしいものがある。奉仕作業でも、大きな学校では人が集まらない。子どもたちの自主性は、(全て自分たちでやらなければならないので) 大規模校とは比較にならないほど育つ。

高原小学校に勤務していた時は、複式学級での授業の視察が多かった。  
小さな学校のメリットを超える統合のメリットを示してほしい。一人一人の子どもたちを大切にしていってほしい。

**( 事務局 )**

教育委員会では、当然のことながら、子どもたちの学習環境をより良くすることを第一に考えている。

計画(素案)の策定後は、地域ごとの協議会の場で更に検討を深めたい。統合のメリットについては、検討委員会からもいろいろご意見をいただいている。各方面からの調査もしている。きちんと説明できるよう準備をしていきたい。学校ごとの児童生徒数の推計も行いながら、計画の策定後も減り続けることを念頭に検討していきたい。御意見を参考にしながら取り組んでいきたい。

**( 教育部長 )**

小規模校のメリットについては、検討委員会でも多く意見が出された。(大規模校と小規模校の) どちらが良いのかは答えが出ない。保護者も教職員も、それぞれの経験に基づく意見である。

現状を変えることへの抵抗感については理解している。

子どもにとって、どうすることが良いのか、どのような結論になるか分からない。最終的には、地域の中で考えていくしかないと思っている。

**( 事務局 )**

来年度に策定する計画は、10年程度のスパンで考えていきたい。

**( 意見 ) (金沢学区)**

小学6年生の子どもがいる。先日、南部会(親善陸上記録会)に参加した。他校に比べて、金沢小は子どもが少ないと感じた。

金沢小は、全員が台原中に進学する。結局は9年間、同じ顔ぶれになる。娘がそれを嫌がっている。他校に行けば色々な団体の部活動ができる。台原中には部活動も少なく、親の目から見て、切磋琢磨という点についても物足りない。入りたい部活動がなく悩んでいる。中学生になるのに楽しそうではない。中学校という違った環境への楽しみが見えてこない。娘のことを考えると統合してほしいと思う。いろいろな考えの方がいるだろうが、家族としては、子どものやりたいことなどの希望が見えないことが心配だ。

**( 事務局 )**

部活動を含めた課外活動の選択肢が狭まることも、小規模化の課題の一つと捉えている。

**( 教育部長 )**

2つの小学校が1つの中学校に進学するくらいが、理想的なのかなと思う。統合するにしても、いくつかのパターンを検討して地域の事情に合わせていくことになると思う。

( 質問 ) ( 東小沢学区 )

検討委員会の議事録を見ると、小さい学校から検討していくとあった。そのように考えているのか。それとも、一斉に立ち上げるのか。

( 事務局 )

検討委員会でも、いろいろな意見が出ている。そのような議論があったことも事実である。しかし、素案では優先順には言及していない。検討委員会の議事録は、そのような議論があったということであり、議事録に掲載されていること全てが決定事項ではない。

優先して取り組む学校がどこになるかは、来年度の検討事項である。

( 教育長 )

皆さんのお話を聞くことは大事だと感じる。

小規模の小学校で学んできた子どもたちが中学校で活躍するという話や、小規模校に希望が見いだせないときにどうするかという話。実際に伺ってみると、実感できる。忌憚のないご意見を伺いながら、より良く進めていきたい。

( 教育部長 )

親御さんはいろいろな思いがあるだろう。時間をかけても私立に通わせる方もいる。

他の自治体の都市部では、学区制をなくし、学校がそれぞれ特色を出して、選べるようにしているところもある。

親が望む環境を整え、それが地域と合意できれば良いと思う。どのような形が子どもにとって良いのか十分に協議し、できるだけ理想に近づけていきたい。

以上